

## 28日 火曜

### 列王 I

22:1 アラムとイスラエルの間に戦いがなく、三年が過ぎた。

22:2 しかし、三年目になって、ユダの王ヨシャファテがイスラエルの王のところに下って来ると、

22:3 イスラエルの王は自分の家来たちに言った。「おまえたちは、ラモテ・ギルアデがわれわれのものであることをよく知っているではないか。それなのに、われわれはためらっていて、それをアラムの王の手から奪い返していない。」

22:4 そして、彼はヨシャファテに言った。

「私とともにラモテ・ギルアデに戦いに行ってくださいませんか。」ヨシャファテはイスラエルの王に言った。「私とあなたは一つ、私の民とあなたの民は一つ、私の馬とあなたの馬は一つです。」

22:5 ヨシャファテはイスラエルの王に言った。「まず、【主】のことばを伺ってください。」

22:6 イスラエルの王は約四百人の預言者を集めて、彼らに尋ねた。「私はラモテ・ギルアデに戦いに行くべきか。それとも、やめるべきか。」彼らは答えた。「あなたは攻め上ってください。主は王様の手にもこれを渡されません。」

22:7 ヨシャファテは、「ここには、われわれがみこころを求めることのできる【主】の預言者が、ほかにいないのですか」と言った。

22:8 イスラエルの王はヨシャファテに答えた。「ほかにもう一人、【主】に伺うことのできる者がいます。しかし、私は彼を憎んでいます。彼は私について良いことは預言せず、悪

いことばかりを預言するからです。イムラの子ミカヤです。」ヨシャファテは言った。「王よ、そういうふうには言わないでください。」

22:9 イスラエルの王は一人の宦官を呼び、「急いでイムラの子ミカヤを連れて来い」と命じた。

22:10 イスラエルの王とユダの王ヨシャファテは、それぞれ王服をまとい、サマリアの門の入り口にある打ち場の王の座に着いていた。預言者はみな、彼らの前で預言していた。

22:11 ケナアナの子ゼデキヤは、王のために鉄の角を作って言った。「【主】はこう言われます。『これらの角で、あなたはアラムを突いて、絶ち滅ぼさなければならぬ。』」

22:12 預言者たちはみな、同じように預言した。「あなたはラモテ・ギルアデに攻め上って勝利を得てください。【主】は王の手にもこれを渡されます。」

ヨシャファテは律法を回復させるなど、信仰的な面もありましたが、一方反逆のイスラエル王であるアハブとの姻戚関係により、不信仰へと引きずられてしまいました。不信者との交わり自体は悪ではありませんが、主を第一にしていないと後悔することになります。

アハブは自分の気に入る預言ばかりさせ、主のことばを無視し、領土拡大という欲に目がくらみ攻め上ろうとします。これに対してヨシャファテは一度は「みこころを求めることのできる主の預言者」を求めますが、結局その信仰も最後はあいまいになって、アハブの言いなりになってしまいます。

信仰はこれを貫かなければ、結局はないも同然です。主はヨシャファテをアハブとは同じようにさ



ばかす助けてくださいましたが、彼は大きな痛手を被ったのです。後悔のないよう、主に最後まで従いましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

